

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

2009年「いのち・愛・人権」上越展

=きりひらこう!人権と共生の世紀=

4.5

2 トピックス 年頭所感

3 視点 一步踏み出す勇氣 それがまちづくり

3 ひろば 私が公民館に足を向けて寝れない理由

6 実践記録シリーズ 地域学習「まるごと小滝ウォーキング」

7 サークル交流 楽しく健康づくり(上越市) / 子どもの成長を見守る「かるがも」(田上町)

7 素顔拝見 五十嵐忠祐さん(長岡市) / 関 正幸さん(湯沢町)



「瓢湖」阿賀野市

国の天然記念物(1954年)

ラムサール条約登録湿地(2008年)

表紙解説

農業用水の池として13年間をかけて寛永16年(1639)に完成しました。毎年約6,000羽の白鳥が渡来し、ガン、カモ類を含めた渡来数は約18,000羽にもなります。

年頭所感

会長 蕪沢 豊



公民館関係者の皆様あけましておめでとうございます。

ついこの間年が変わったと思ったら、あつという間にまた新しい年を迎えた感じがいたします。歳をとるにつれ、時間の経過がだんだん早く感じられませんが、それはどうしてでしょうか。これには、子どものころに比べて新たに記憶することが少なくなるから、あるいは心臓の鼓動が歳を取るにつれ遅くなるからなど諸説があります。また、生きてきた長さの違い、具体的には、例えば10歳の子どもにとつて1年は10分の1であるのに対して、60歳の人からすればわずか60分の1にすぎない、といった説もあります。個人的には、このあたりが一番の理由ではないかと思っておりますが、皆様はいかがお考えでしょうか。いずれにしても一日一日を大事に過ごしていきたいものです。

昨年は、政権の交代や景気の低迷のほか、新型インフルエンザの流行、あるいは大河ドラマ「天地人」の放映や新潟国体の開催などさまざまな出来事がありました。

また、社会教育法が制定されて60

年という節目の年でもありました。「全国公民館研修大会」では、これまでの公民館の歴史やこれからの公民館のあり方などのシンポジウムが行われましたが、公民館において社会教育の振興、まちづくり・人づくりなどのために様々な活動をされてこられた歴代の緒先輩の功績を改めて感じることが出来ました。

現在、少子高齢化や国際化、地方分権化などめまぐるしく変化する中において、次々と課題も生まれています。家庭や地域社会の教育力の低下も課題の一つとなっています。

その背景には、核家族化や社会の情報化などによる家庭や地域の価値観の変化が指摘されていますが、このような時代にこそ、地域課題解決のため、公民館の果たす役割はますます重要になってくると考えております。

公民館を取り巻く環境は大変厳しくなってきましたが、皆様の公民館が地域からさらに信頼され、地域に活力と潤いを生む存在として、ますます力を発揮されますようご期待をいたしております。

さて、長岡市では、昨春秋「高齢者

趣味の教室」の受講生の成果の発表の場である作品展と芸能発表会が行われました。作品展では絵画や書道など多くのすばらしい作品を出展していただきました。また、芸能発表会では民謡や謡、詩吟などをステージで披露されていました。その姿は本当に生き生きとしていて大変感動しました。

身体は一年経てば一年老いていくことは自明の理で、誰にも避けられませんが、しかし、芸能発表会での受講生の元気な姿を見て、心の若さはチャレンジ精神がある限り持続できるものだと痛感いたしました。

何事を始めるにも遅すぎるといふことはありません。「思い立ったが吉日」という言葉もあります。今年こそ強い意志と目的を持ち、「継続は力なり」の精神で何か新しいことを始めてみたいと思っております。

公民館にはたくさんの方々の団体やサークルがあり、また、様々な講座も提供しております。皆様も今年何か新しいことをチャレンジされてはいかがでしょうか。

今年には県公連にとりまして、創立60周年の節目にあたり、記念事業等を企画しております。実施段階でまた、皆様方からご支援・ご協力をいただくことになりましたが、何分よろしくお願ひいたします。

年頭に当たり、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。本年もよろしくお願ひいたします。

あけまして おめでとうございます

昨年は、何かとお世話になりました。

新春を迎えられ、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年には県公連創立60周年記念事業を予定しておりますが、皆様方のご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



平成22年元旦

新潟県公民館連合会役職員一同

視点

一歩踏み出す勇気 それがまちづくり



新潟市関屋地区公民館活動協力員 代表 伊井 昭夫

新潟市は政令指定都市移行に伴い、各区毎に基幹公民館を1館、その他は地区公民館として位置付けて再編成しました。そんな中、私達の関屋地区公民館には活動協力員が現在9名委嘱されています。この外、青陵大学の先生が特別参加されています。

組織も人心も一変、役割も「行動する協力員」と位置づけられ、私達も公民館の呼びかけを待ただけでは前に進まないし変化も起きないことに気づきました。会合を重ねる中、高齢者の多いこと、市民に喜ばれ、継続性のあることを念

頭に、「転倒予防体操教室」を公民館事業として実施することになりました。問題点は予算と事業の差別化でした。不思議なもので、目的ははっきりすると皆で資料を集め、議論が白熱、ポスターを作成配布、予算もクリア、最後は体操教室に全員参加。まさに参画の意義はここにあります。

待っていても何も解決しない、一歩踏み出す勇気とちよつと肩を押してくれる人が大事、今回も館長に乗せられ打ち上げを楽しむことが出来ました。

先日、ある例会で「ホリスティック医療」についてお話させていただきました。といつても私は医師でも教授でもありません。ホリスティック医療で有名な「帝津三敬病院」(川越市)主催の「養生塾」を半年間受講していた経験から、それを昼に実技も含めて紹介させてもらいました。

三年前の受講当時は、「ホリスティック」という言葉を知らない人が殆どでしたが、最近をよく耳にするようになりました。「いのちまるごと」というホリスティックの生命観に、時代の機が熟し始めているのでしよう。



公民館まつりにて

そもそも私がホリスティック医療に興味を持ったのは、趣味の太極拳が

きっかけでした。太極拳を実際の治療に活かしている病院があると聞き見学させてもらったのです。

太極拳には18年前、公民館主催の体験講座で出会いました。それを機に医学や科学など多方面に関心が広がりました。まさにあの太極拳講座なくしては私の華々しい人生?は語れません。かくして今夜も、公民館には足を向けて「寝られない…」のでした。(エヘ)

H O T N E W S

掲 示 板

県民公開講座ご案内

いきいき人生 笑い与健康づくり
～ストレス時代の上手な生き方～

講師 大西金吾先生(産業カウンセラー)の紹介
1948年(昭和23年)南魚沼市(大和町)生まれ
(社)新潟県労働衛生医学協会常務理事
(財)新潟県健康開発財団常務理事
中央労働災害防止協会登録心理相談員
自治医科大学産業医学研修会講師

長寿社会を楽しく生きる方法を爆笑講演で紹介しています。

- ① 平均寿命と健康寿命
- ② 笑って笑って健康づくり
- ③ 健康を支える4つの矢
- ④ 健康で長生きする7つの方法

*事前申込は不要です。当日会場に直接お越しください。

なお、駐車場が狭いので、できる限り公共交通機関でのご来場をお願いします。

と き 平成22年1月24日(日) 入場無料
午後3時から4時30分まで

ところ 万代シルバーホテル 5階 万代の間
新潟市中央区万代1丁目3番30号
電話 025-243-3711

主 催 社団法人新潟県薬剤師会
問合せ先 電話 025-281-7730
ファックス 025-281-7735

私が公民館に足を向けて寝れない理由

ひろげ

見附市公民館運営審議会委員 小林 礼子



・愛・人権」上越展

人権と共生の世紀＝

域の近世を中心にして、共同体の中での構造的な位置や仕事など、被差別部落が、当時の社会に不可欠で重要な役割を担っていたことを、分かりやすくお話いただきました。最後の、「それぞれの“違い”を、“多様性”として認め合うことが、豊かな社会づくりに繋がる。」というメッセージが印象的でした。



大事な3点を子どもたちに話しました。

3. 子どもたちの参加

今回の人権展は、小中高校の子どもたちが、例年よりも多く参加・観覧したことが、特徴の一つとして挙げられるのではないのでしょうか。

『パネルを見ることで、いろいろな差別や人権を侵害する現実があることに、まずは気づき、知ってほしい。「かわいそう」だけでは差別はなくなる。差別をなくすために、自分には何ができ



パネルを見る子どもたち



パネルの詳細な内容を解説員が説明

るか考えてほしい。そして、差別をなくすために、家族や友達とともに、実際に自ら行動を起こしてほしい。』

今回は、会場を訪れた4000人を超える子どもたちに対し、観覧する冒頭に、「気付くこと・感じること・行動すること」の、この大事な3点を話しました。

解説員の話にうなずきながら耳を傾ける子ども。メモを取ることも忘れ、1つのパネルを凝視する子ども。帰宅後、再び家族とともに会場を訪れた子ども。今回の人権展に込めた私たちの思いを、ちゃんと受け止めてくれた子どもたちに喜びを感じ、今後に期待しています。

4. さらなる前進をめざして

今回は、6000人の方から来場いただきました。次代を担う子どもたちのために立ち上がった先達から学び、一刻も早く、一人ひとりが大切にされ、幸せに生きられる社会をつくらねばなりません。今回の人権展は、子どもたちだけでなく、来場したすべての方々に、「気付くこと・感じること・行動すること」の大切さを、あらためて考えていただく機会になったと思っています。来年度にさらに繋げていってほしいと思います。

特集



上越市教育委員会
生涯学習推進課
主任 沢田 繁

1. 北陸4県の部落解放運動の出発地で

「友達の家には遊びに行くが、自分の家が汚いから友達を連れてこられない。」

そんな率直な子どもたちの訴えを発端にして、

1968年(昭和43年)10月、亀井喜代二氏は、「生活を守る会」(現在の部落解放同盟上越支部)を

設立したといわれています。

北陸4県では初めて、ここ上越市で、部落解放

運動の灯が点つてから、ちょうど40年が経ちました。その記念する年に、12月4日(金)から10日

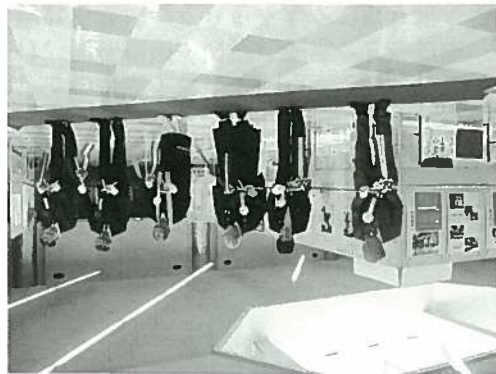
(木)までにわたって、「きりひらこり！人権と共生の世紀」をテーマに、2009年「いのち・愛・人

権」上越展(人権展)が開催されました。新発田市で1989年に第1回が開かれてから、毎年、県内

市町村を巡回しています。当市では、2002年(平成14年)以来、4回目の開催となります。

「いのち・愛・人権」新潟県実行委員会と部落解放同盟新潟県連合会、新潟県人権・同和センター

が中核となって、当市をはじめとする関係行政機関や、新潟県同和教育研究協議会(県同教)、「同和」



テーマで開幕

問題にとりくむ新潟県宗教団連帯会議(同宗連)

など多くの団体・機関が集まり、6月に上越展実行委員会を結成して、準備を進めてきました。

2. 被差別部落の歴史と実情を明らかに

今回の実行委員会では、パネル製作専門委員会を中心にし、人権展の準備と開催を通じて、開催

地の被差別部落の歴史や実情などを明らかにするとともに、新しい開催方法も試行していくことと

されました。

記念講演をお願いした東日本部落解放研究所事

務局長の藤沢靖介さんから、事前に当地においていただき、図書館で古地図や古い資料を調べたり、

自動車で実際に現地にまわったりして、被差別部落の歴史や実情と一緒に調査していただきました。今

回は、時間もなく、調査内容のすべてを、人権展に直接生かすことはできませんでしたが、講演者と主

催者が、共通認識を持つよい機会となりました。



記念講演される藤沢靖介さん

また、来場者全員に配られるパンフレットの内

容も、一部見直しを行いました。参加団体に対し

ても、展示パネルの見直しや新たな製作も依頼し、

当日は、330を超えるパネルが展示されました。

初日の藤沢靖介さんの記念講演では、豊富な研究

実績を背景に、関東、長野、新潟など東日本地

2009年「いのち」

=きりひらこり!

実践記録 142 シリーズ



ヒスイ峡学習後インストラクターより説明を受ける参加者

地域学習「まるごと小滝ウォーキング」

糸魚川市小滝地区公民館 主事 中村 久和



インストラクターより「糸魚川ジオパーク」の講義を受ける参加者

◇はじめ

平成16年の冬期におこなった糸魚川を代表するヒスイ峡、明星山、高浪の池等の地域資源の活用を図るワークショップをきっかけに、「地域の宝再発見」と「体験と交流」を主とした誇れる地域づくりをめざし、また最終的にはビジネスにも結びつけばとの構想等が話し合われました。

その実現に向け、8月に地区内の各種団体で実行に向けての会を組織し、まずは地域の「いいところ探し」探索を3回ほど実施し、また、ワークショップで指導いただいた県振興局や市の関係部署の協力があり、同年秋より「まるごと小滝ウォーキング」を実施することになりました。

◇やれることからはじめよう

最初は、自然を中心とした地域の資源を地元の人に再確認してもらうこと、来た人を地域の食材でもてなすことをコンセプトに開催しました。

「見る・学ぶ」では、ヒスイはもちろんですが、ここにしかない断層や、鉱物に触れ、また渓谷美なども楽しみ、「もてなす」では、地域で採れる山菜やきのこ、川魚を食していただき、食を楽しむと共に交流を図るというものでした。

断層や鉱物の説明には、市の学芸員をインストラクターにお願いし、食の方では、地元のお母さん方が山菜等を持ち寄り、手作りで協力してくれました。

会では2回目より広く市外・県外へ案内も行うことになり、山菜・きのこ採り、地域の入り口の花壇づくり、コースの整備等、秋に向けての準備を行うようになりました。

また、事業と関連して、より地域を知るため「地域学習会」も年3回ほど実施しています。

◇「糸魚川ジオパーク」との連携

今年8月「糸魚川ジオパーク」(糸魚川市では大

地の公園と訳していますが、世界ジオパークネットワークに他の2つの地域と共に、日本で初めて認定を受けました。

糸魚川ジオパークには市内全域に24のジオサイトがあり、この地域にはその中のひとつ「小滝川ヒスイ峡ジオサイト」があります。

改めて地域の「宝」であるヒスイ峡、明星山、高浪の池の3大資源の他にも多くの魅力がある地域であることが再確認され、この事業を通して誇れる地域であることも強く実感することができ、また世界ジオパーク認定に少しは寄与できたのではと思いますし、誇れる地域への自信も生まれてきたのではと思います。

◇今後の展開と課題

「糸魚川ジオパーク」が世界に発信されたことにより、今後世界の各地から、また日本中から糸魚川を訪れる人が増えることが予想されることから、この事業を継続していくため、「宝」とその他のさまざまな「宝」を組み合わせ、さらに磨きをかけ、マンネリ化しないよう新しい楽しみ方を創り出し、そしてより地域の活性化が図られることが大事になってきます。

1日だけのイベントから、時期による年数回の開催、また、より高度なインストラクターの養成、より「小滝」らしさを出したもてなし等を進めると共に、地域内の観光施設等との連携や少しはビジネスにも繋がるなど、様々な取り組みが考えられています。

◇最後に

地域では高齢化が進み、現在の会の中心には高齢者が多く、事前の準備などの動きが鈍くなってきています。

また、コースの整備などを必要とする所も多々あります。

今後、この事業を進めていく上で、若者への参加呼びかけ、関係機関への環境整備などをお願いしながら、誇れる地域づくりをみんなで取り組んでいきたいと思っています。



公民館事業も多様化する一方で、参加者の減少や固定化、そしてマソリ化等今後の事業展開の悩ましい問題を抱えておりますが、持ち前のバイタリティーで公民館事業の企画運営に取り組み姿勢は、頼もしい限りです。そんな関主任も7月には4児の父となり、「おむつ洗いが日課です。」と嬉しそうに話しています。仕事と家庭の両方を大切に、がんばる関主任です。
(湯沢町公民館長 角谷 誠次 記)



湯沢町公民館
主任 関 正幸さん

12年の放浪生活を経て、この4月に公民館にカムバックした関主任を紹介したいと思えます。20年前に新採用で、本人曰く『若さとバカさの公民館職員』を売りにしていたとのこと。現在は、立派な中年？になりましたが、12年のフロンクをもとせず、職員と和気あいあいのうちに積極的
にリードしている姿は経歴を感じさせます。

素顔 拝見

目を覚ますとそこは寢室。目の前には、向きが大きく変わっている重量感溢れる幅2.5mのクヌミ！トイシの戸とクヌミを勘違いしたら怖い！しかし貴賓すべきはその人並み以上の腕力！そんな思さんは腕力のみならず、意志も強い。現在は平日の禁酒を執行中！禁煙はすでに成功済み！
男として尊敬します。忠さんの今後の伝説に乞うご期待！
(長岡市和島公民館主事 齊藤 泰弘 記)



長岡市和島公民館
主任 五十嵐忠祐さん

イケメンで、スポーツ万能、そして何事にも一生懸命な男、その名は『五十嵐忠祐』。子どもたちから『忠さん』で親しまれる彼は、平成21年4月に異動して以来、ずば抜けた企画力と行動力で、私に日々刺激を与えてくれます。好きなものはお酒。これにまつわる数々の伝説の内1つをご紹介します。
帰宅後、いつものごとく、飲みすぎて、トイシの戸を開けたまま、爆睡。明け方、

田上町・川崎 麻耶さん 記

下で、せひ参加して、元気の交流の場として、今後はかまもサードを見ても驚かすかも。成長している新家の友達と接するに違て、自然とママ友達も、相談も、代は親決まらず、親の世間を、あんなにか、



circle サークル交流

【サウザン】の守り会交流のサウザン

かかると、は、の交流の場所が、を田上町で、は、毎週水曜日の午前2時、は、



代表 上越市 村山友紀子 記

流も、長も、交、ラ、本、水、競、技、入、事、行、ス、

年、月、十、年、の、快、を、問、七、十、の、年、の、ラ、マ、マ、

event information

無料 講師派遣のご案内

講演内容 (90~120分程度)	・生命保険 ・医療保険と介護保険 ・年金 ・生活設計と生活保障 ・定年退職準備
受講者数	20名以上
講師	生命保険文化センター職員 等
謝礼・交通費 資料代	不要

※休日や夜間の開催も承ります。
 ※講師については、開催日の1ヶ月前に決定し、連絡させていただきます。
 (なお、直前のお申込みも受け付けておりますが、講座準備の都合上、なるべく早めにご連絡ください。
 ※テーマ、日程等によっては、ご希望に添えない場合があります。
 ※ご不明な点については電話でお問い合わせください。

お申込み方法

- ①ホームページ (<http://www.jili.or.jp/>)
 当センターのホームページの「講師派遣のご案内」コーナーにて、必要事項を入力ください。
- ②専用の講師派遣申込用紙
 必要事項をご記入のうえ FAX いただくか、下記住所の担当者宛にご郵送ください。

お申込み・お問合せ先

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル8階
財団法人 生命保険文化センター 学習会担当
 TEL 03-5220-8517 FAX 03-5220-9092
 ホームページ <http://www.jili.or.jp/>

お申込みの際にいただく情報は、講師派遣の諸連絡・資料送付、および講師派遣のご案内に活用させていただきます。
 (財) 生命保険文化センター

恵贈資料紹介

「旅の記念日」

一、筆者にとって旅はライフワークで、その基点は、1目的や目標がしっかり定まっている、2旅先についての基本的な知識を持っている、3計画立案や旅費計算が自分でできる、4自分なりの旅の仕方方を身に付ける、5旅の記録や資料の整理・保存ができる、等の5点にまとめ、この中で筆者なりの旅のスタイルは、一人旅、鉄道旅行、ユースホテルに置いている。
 二、一人旅の魅力
 1文字どおり一人になれ、自分の気持ちや考えに忠実になれる。



2自由気ままで、自分の都合でいつでもどこでも行ける。3趣味やテーマにこだわり、それに合った旅先が選べる。4人との出会いの機会が多くなり、旅の世界が広がる。

新潟県ユースホテル協会
 事業運営委員
 山田 清史

三、鉄道旅行の魅力 4点
 (紙面の都合で省略)
 四、ユースホテルの魅力
 1男女別部屋が基本で、一人旅に最適の宿泊施設である。2ベアレント(管理者)やホステラー(利用者)との語らいの場がある。3宿泊料金が安く、経済的である。4外観・内装や雰囲気は様々で、バラエティーに富んでいる。
 ・発行所 (株) 近代文芸社
 ・定価 二、四一五円 四一七頁
 ・問合せ TEL ○二五六一
 八二二七三五(自宅)

雪によって生ずる諸問題解決のため、取り組んでいます

新潟県をはじめとする豪雪地帯は、豊かな土地、水資源良好な自然環境等に恵まれ、食料やエネルギーの供給地として、我が国を支える重要な役割を担っております。

協議会会員19市町村は、緊密な連携を図りながら一致協力して特別豪雪地帯の住民生活の向上を図るため、取り組んでいます。

新潟県特別豪雪地帯市町村協議会

会長(妙高市長) 入 村 明 (会員19市町村)

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館(新潟県市長会内)
 TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135

あ と が き

あけましておめでとうございませう。今年もよろしくお願ひいたします。会長の年頭所感にも述べられておりますが、今年もよろしくお願ひいたします。

連創立60周年の節目にあたり、2月の評議員会で承認されてから具体的な動きが出て参りますが、実施にあたっては、ご支援・ご協力何分よろしくお願ひいたします。(鈴木 記)